

第1回・第2回を通じた皆さんの意見

■基本計画策定の進め方

1. 城崎温泉交流センター基本計画の目的と背景

- ① 将来人口が減少する中で、公共施設のあり方を見直し、地域にとって望ましい形で次の100年につなげることが必要。
- ② 路線価の上昇により、城崎は注目されている地域であることを再認識。
- ③ 市民や観光客にとって使いやすい施設を目指し、多様な意見を取り入れる。

2. 検討会の概要と進行方法

- ① ホームページや会談で検討会の進捗を公開し、町民の意見を反映させる。
- ② 会場の都合を踏まえ、15人程度を上限に傍聴を可能にする予定。
- ③ 記録用としてビデオカメラや音声記録を使用する。
- ④ 次回の検討会日程を調整し、2～3回程度の開催を予定。

3. 公共施設の集約化と機能

- ① さとの湯の基本計画として、城崎温泉交流センター、城崎文芸館、麦わら細工伝承館をさとの湯に統合することが提案されている。

4. 施設の設計と運用

- ① 今年度は基本計画を策定、来年度以降、基本設計・実施設計を進める予定。
- ② 長期的な運用を考慮し、維持費がかからない健全な運用ができるようにする。

5. 施設整備の範囲とJR敷地の利活用方針

- ① JR敷地では基本的には営業行為を行わず、営業行為は市の土地の範囲で行う。
- ② JRの収益をうまない敷地は、駅前のにぎわいを阻害している可能性がある。
- ③ JRの敷地は採算が合えば収益を伴う利用もありえる（土地の購入含む）

■皆さんから出た意見

1. 将来を見据えた駅通りを含めた駅前空間の計画が必要

- ① 現在はさとの湯が休業中なので旅館のお客さんしか歩いていない。
- ② イベント広場は中途半端な存在となってしまっている。
- ③ 駅前のロータリー部分の動線がわかりにくいので、これも解消できるとよい。
(駅をおりて街にあるく・送迎・バス滞留・広場たまり場などの機能)
- ④ 桃島バイパスの完成時に、温泉街の外側に大きな駐車場ができることになる。これにより、城崎温泉駅と、駐車場部分（城崎中学校付近）の2つのまちの玄関ができる。こうした交通体系に対応した形で、駅前空間を検討していく必要がある。

2. さとの湯と駐車場

- ① 車の日帰り客は、駐車場の関係でさとの湯か鴻の湯を利用することが多い。
- ② さとの湯の利用駐車場としての規模があればよいのでは。観光客・来街者の駐車場は将来的に小学校を利用するなど工夫ができる。

3. さとの湯らしさ、個性をどう出していくか

- ① サウナは地域住民や観光客に人気があり、魅力的なコンテンツ。
- ② 城崎らしいサウナが求められるが、管理が大変であることも考慮が必要。
- ③ サウナブームは無視できないが、回転率が下がり待ちが出る可能性もある。

- ④ 今まであったものがなくなるのは問題がある（サウナ）
- ⑤ サウナは別料金にするなどの検討も必要ではないか。
- ⑥ ある程度の客数は必要であり、それに見合うキャパシティを備えるべき。
- ⑦ 駅前にあることに価値がある。これを活かさないといけない。
- ⑧ 電車に乗って近隣から来るお客さんもある。
- ⑨ 足湯はいるのか、いらないのか検討が必要。
- ⑩ 温泉利用型の健康増進施設という考え方ができないか。
- ⑪ 城崎の風呂は現在のスタンダードではない。スタンダードを作る可能性も。
- ⑫ ユニバーサルデザインは考えておかないといけない。

4. 若者や住民の意見

- ① 若者や地域住民にとっても魅力的な施設であることが重要。
- ② 出生数の減少を考慮し、長期的な視点で施設のあり方を検討する。
- ③ 若者の意見を積極的に取り入れ、地域活性化につなげる。
- ④ 別料金での運用や、独自の特色を持ったサウナの導入が提案された。

5. 文化と観光の融合

- ① 城崎の歴史と文化を感じられる施設が重要。
- ② 麦わら細工の体験スペースや文芸館の機能を集約し地域の魅力を高める。

6. 施設の具体的な機能とデザイン

- ① 文芸館の機能は観光案内所など、分かりやすい場所に移してはどうか。
- ② 伝承館や文芸館の機能をどう新しい施設に集約するかを検討が必要。
- ③ 駐車場やイベント広場の配置を考慮し、土地の有効活用を図る。

7. 城崎文芸館のあり方について

- ① 文芸館を分散化するアイデアが上がっているが現実には難しい。
- ② 真贋の分からないものを保存している面がある。価値判断を改めてすべき。
- ③ 単独で文芸館に来る観光客は少なく、集客する手立てが必要。
- ④ 企画展等があれば集客増も考えられる。展示替えがないと厳しい。
- ⑤ 文芸館の名前が悪いということはないか。例えば、まちの歴史を知りたいという需要はあるはずなので「城崎歴史館」など。
- ⑥ まちを歩く前に城崎の歴史を知るための施設ならば、活用価値はありそう。

8. 麦わら細工伝承館のあり方について

- ① 麦わら細工はお金を取って見てもらえる価値がある。
- ② 染色のための施設が展示施設に加えて必要なので、スペースを用意したい。
(染色スペースのほかに、洗う場・炊く場・干す場などのスペースも必要)
- ③ 展示物の中には歴史的価値のあるものもある。保存の仕方の検討が必要。
- ④ 体験スペースは必要。他施設（店舗）との役割分担も考える必要がある。